

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0591200084		
法人名	有限会社 福寿		
事業所名	グループホーム角館		
所在地	秋田県仙北市角館町勝楽122-1		
自己評価作成日	令和1年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和1年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「認知症があってもあたり前の生活を送れるお手伝いをめざします」という理念の下で「笑って楽しく生きることを支えます」という事業所目標を、職員全員で話し合い決めている。事業所内には童謡の「うさぎとかめ」の替え歌で「年をとるってどんなこと」の歌詞が貼られており、その歌詞の中には“年をとるってどんなこと、誰でも同じ年をとる、どうせとるなら元気よく、楽しく年をとりましょう”とある。認知症の入居者様、一人ひとりが考える「あたり前の生活」を送る中で、笑いながら元気に楽しく、年を重ねていくことを支えていきたいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者のホームでの生活を支えるために、職員が十分に話し合っってホームの理念、目標を策定しています。常に本人の立場にたって職員が意見やアイデアを出し合い、利用者へのケアはきめ細かく、さまざまな工夫や配慮がみられ、また、アセスメントに基づいた介護計画や支援経過の様式も必要に応じて見直ししながら整備を続けており、より良い支援に繋げていけるよう努力しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は職員全員で話し合い決め、認知症を理解しつつ地域で安心して生活を継続することができるよう努めている。常に理念や目標を意識できるよう事務所とトイレに掲示し、職員全員で共有している。	理念の実践と共有のために、職員が個人目標を設定して利用者へのより良い支援に向けて努力しており、スキルの向上にも繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェの開催、イベントへの参加など、地域の方と接する機会を設けている。地域の方が野菜を届けてくださったり、散歩の際は声を掛けてくれたりと、日常的に交流している。	ボランティアの訪問や利用者の馴染みの場所との関わりを大切にし、認知症カフェの開催時には利用者も手伝っており、地域住民との交流の拡充に繋がっていけるよう努力しています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症カフェを開催し、地域の方向けに認知症サポーター養成講座を行っている。また、職員は認知症キャラバンメイトとして、事業所以外の地域や学校に出向いて活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活の様子や行事、参加した研修内容を報告する中で、認知症の方の対応方法に関する相談やご意見をいただいている。それら意見を参考にし、事業所内で研修や会議を行い、サービス向上に努めている。	その時々テーマに沿って資料を添付し、ホームの取り組みが詳細に報告されています。運営推進会議を通じて地域の参加者がホームの理解者となり、また、出された意見がサービスの向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際に事業所の現状を伝えたり、入居者様の心配事など課題解決に向けて相談したりしながら、情報を共有し、連携しながら入居者様の生活を支えている。	生活保護受給者への対応で情報を共有し、認知症カフェやサポーター養成講座の開催を通じて連携を深めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回、事業所内で研修を行い、身体拘束の正しい理解に努めている。夜間の防犯目的以外は玄関を開放しており、スピーチロックなどの行動制限を含めた身体拘束ゼロのケアを実践している。	指針を整備し、定期的に研修を行って職員の認識を深めています。スピーチロックには特に注意し、声のかけ方を工夫する等、自覚を持ってケアにあたることを話し合って実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と合わせて事業所内で研修を行い、虐待防止の理解を深めている。「害を及ぼさない」は、介護職の基本理念であることも学び、言葉遣いから始まる虐待にも注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護の制度を活用する方はおりませんが、制度の内容を理解していなければ関係者に対して情報提供できないため、今後は知識を得る機会を持ち、理解を深める必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等の説明を行う時には、書面を見ていただきながら説明し、ご理解いただき、同意を得るように努めている。 改定時も、書面や口頭で説明し、同意をいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、苦情や相談窓口を記載し、外部への相談も可能であることを伝えている。 また、ご意見等の多くは面会時に直接お話しただいており、運営にも反映させている。	ホーム便りや面会時に利用者の日常を伝え、管理者、職員が家族との関わりを大切に話して話しやすい関係づくりに努め、出された意見等を運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、事業所内の職員会議等で意見や要望を聞き、毎月開催されている管理会議で報告や相談をしている。 代表者は、各事業所からの報告を受け、運営に反映させている。	職員のアイディアや提案が利用者の機能の低下防止、できることや希望することの実現に繋がっており、意見等が出た場合は全員で検討して反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の為の受講料や参加費を補助していただけることは、職員のスキルアップや向上心につながっている。 日頃から管理者や職員と話す機会を設け、職場環境の状況把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に法人内外の研修への参加を奨励しており、年間研修計画による研修や対象者を絞った研修も行っている。 法人内に教育研修委員会を組織し、OJT等の研修を再検討しているところである。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社長が会長である地域密着型介護事業者連絡会に加盟し、研修等で学ぶ機会を持ち、顔が見える関係作りも行っている。 他事業所の良い取り組みは事業所内でも取り入れ、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様と会い、良い雰囲気作りを行いながら様々なお話を伺っている。その中でも心配な事を聞き取るように努め、サービス開始時のケアプランにも反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様と会い、これまでの経緯や困っていること、不安なことを話していただいている。また、ご本人様が同席していない場所や電話などでも、お話を伺うようにしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できること」を把握し「している」行為等を増やすことができるように働きかけている。野菜の育て方や調理法など教えていただくことも多く、自尊心を保てる関わり方を心掛けている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の状況報告書やホーム便りでご本人様の状況を伝え、困りごとは相談し、一緒に解決できるよう働きかけている。また、ご家族様にしかできない関わりを大切にされた支援に努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お茶のみ友達の近隣の方や同じサークルにいた方、信仰する宗教の友人の方の面会があり、ゆっくりと話ができるよう配慮し、お帰りの際には、また会いに来ていただきたい事を伝えている。	知人や家族の協力もあり、馴染みの場所や人との関わりを大切にされた支援が行われています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様ひとり一人の性格や他者とのかわり方を把握し、支援している。価値観や考え方は皆違う、ということを忘れず、一人の時間も大切にしつつ共同生活の良さも感じていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後に、仕事の関係でご家族様とお会いする機会があり、ご家族様の病状の経過をお聞きし、フォローするなどの支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から出た希望等は、できる限り実現に向けて職員間で話し合ったり、自分での意思表示が難しい場合でも、家族からの情報提供をもとに意向の把握に努めたりしながら、ケアプランにも反映させている。	利用者の様子をよく観察し、普段の関わりの中からも希望すること等を把握し、ホームでの生活に取り入れています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス担当者会議の中で情報を共有し、できる限り意向に沿った暮らしが継続できるように努めながら、時に変化のご本人様の意向を把握する為、ご家族様には小さなことでもお聞きするようにしている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもと違う言動等があった際は記録に残し、職員間で情報を共有している。 ご本人様の持っている「できる力」を存分に発揮していただくため、現状を把握し、声掛けなどを工夫しながら支援している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意向を確認し、医療職などからも意見をもらい作成している。 実践と評価を繰り返しながら、各担当職員を中心とし、要望や変化に応じて臨機応変に職員全員で見直しを行っている。	職員の気づきを記録して申し送り共有し、職員全員で意見を出し合って介護計画を作成しています。利用者、家族の意向も反映させています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や水分摂取量、排せつ状況、その日の様子や言動、表情、気づきを記録し、職員間で情報を共有している。 また、評価や今後の課題を導くためにも、記録を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市で行っている研修に参加して、新たな社会資源の情報収集に努めている。 また、包括支援センター協働での認知症カフェを開催し、入居者様も参加して、コーヒーを淹れてもらっている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人様やご家族様の希望に沿って選んでいただいている。 医療に関する疑問は、法人の看護師やかかりつけ薬局からアドバイスをいただいたり、研修会の開催などを通して、つながりを大切にしたい連携を図っている。	入居前からのかかりつけ医で定期受診しています。歯科医とは研修を通じて協力が得られ、法人看護師とも連携が図られて適切な支援が行われています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の週1回の訪問時に、状態に変化のある入居者様の報告や相談を行っている。 その他、急な状態悪化時や受診の必要性に関しても、24時間対応していただく体制があり、早期の対応に努めている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスムーズに治療が受けられるよう書面にて情報提供を行い、病院職員と連携しながら退院までの支援を行っている。 また「医療・介護連携のつどい」など連携を強化する研修会にも参加し、関係づくりを行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針(看取りの指針含む)」の説明を行い、同意をいただいている。 重度化が進んだ段階で再度話し合い、ご本人様やご家族様の意向を尊重できるよう、事業所としてできる支援体制をとっている。	指針を整備してホームでできることを伝え、法人内で連携できることも伝えながら個々の希望に沿った支援ができるよう取り組んでいます。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	定期的に全職員が消防署員による普通救命講習に参加している。 また、事業所内で急変時の対応や異常の早期発見のポイントについての研修を行い、すぐに動ける実践力を身につけている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施しており、消火器や発電機の使い方、避難誘導、119番通報の仕方などを全職員が身につけている。 災害の時は協同体制を図る為、地域の町内会長様の連絡先も連絡網に記載されている。	夜間を想定した訓練、水害を想定した訓練も実施しています。計画的な避難に向けた対策を書面に表し、災害に備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の性格や気分を把握して、特に排せつに関する誘導等の際には、言葉を選びさりげなく対応するように心掛けている。 また、プライバシーに関する研修も行い、個人情報の保護と同様に理解を深めている。	声のトーンや言葉遣いに配慮し、その人に合わせて自然体で接しています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から要望を引き出し、イベント等を企画し、可能な限り実現させている。 着用する洋服や飲み物、余暇活動などは、毎日自己決定できるように働きかけている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の中で、ある程度の目安となる食事や体操、お茶の時間、消灯時間は決めていますが、無理強いすることなく、一人ひとりのペースやその日の気分に合わせた支援を行っている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣類は、気候に合わせて選んでもらったり、洋服を買いに出掛けた時は、自分で見て選んでもらったりしている。 カラーやカットも自分で要望を伝えてもらうなどの支援を行っている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様のできる力を活かして、一連の調理を一緒に行い、一緒に食事を摂っている。 また、記念日にちなんだ食事や、旬の食べ物を取り入れ、季節を感じるようなにしている。	栄養士が利用者の希望を取り入れて献立を考え、準備等を一緒に行っています。ホールから見える場所で野菜を育てたり、流し素麺やバーベキューで食事に変化をつけたりして食事が楽しいものとなるよう工夫しています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を把握しやすいようにチェック表を用いながら、咀嚼や嚥下状態に合わせ食事形態を工夫している。 また、法人の管理栄養士からアドバイスをいただき、栄養バランスにも気を配っている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けや介助を行っているが、ご自分でできる方の口腔内の把握が不十分である。 義歯は朝食後にご自分で外してもらい、洗浄剤を使用して清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排せつ間隔を把握し、声掛けを行い、トイレでの排せつを支援している。「これがあれば安心だ」「ゆっくり寝れる」とパット等を使用する入居者様もおり、ご本人様の気持ちに添った支援をしている。	その人に合った対応を随時検討し、日中はトイレで排泄しています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず排便できるよう、朝に冷たい牛乳、料理にはオリゴ糖を使用したり、お茶の時間にはごぼう茶を提供したりしている。また、腹部をひねる運動を体操に取り入れ、入浴時には腹部マッサージも行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好みの入浴剤や湯温、一番風呂など、入居者様の希望に添えるように支援している。こだわりを強く持たない入居者様には、体調や疲労感を見極め、声掛けを行っている。	身体状況に合わせて対応しており、ゆっくり入浴していただけるよう支援しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人のペースや生活習慣、体調、希望に合わせて、休息や就寝できるようにしている。温度や湿度の確認、好みの寝具、時に足浴を行い、気持ちよく休める支援をしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬一覧表を作成し、薬効や副作用をまとめ、薬についての理解に努めている。特に処方内容変更後の副作用や状態の変化等を注意深く観察し、法人の看護師やかかりつけ薬局に報告や相談をしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作りが得意な方、自分が淹れたコーヒーを飲みたい方、生け花をする方、ハサミを上手く使える方、手先が器用ではないが指導して下さる方など、一人ひとりの習慣や役割を活かす事ができるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外で体操したり昼食を摂ったりし、行きたい所には外出できるよう支援している。時々のご家族様と外出や外泊される方もおり、その時には日頃の様子やお薬の説明を行い、安心して出掛けられるよう支援している。	ドライブや夜桜見物等、利用者の希望を聞きながら戸外に出かける機会をつくっています。知人や家族との外出も大切なものとして積極的に支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	年に数回、季節ごとに買い物レクレーションに出掛けている。 財布にお金を入れて渡し、入居者様自身が自分で計算しながら商品を選んで支払いまで済ませることを支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	2名の方が携帯電話を所持しており、自分で操作して電話をかけている。 電話をかけたいとの要望があれば、事業所の電話を利用していただいている。 ご家族様へ、年賀状を書いて送っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの表示を目線の位置にしたり、トイレの不快な臭いを防ぐため、消臭剤を使用したり、ドアを閉めるなどの配慮をしている。 また、ホールや玄関には入居者様が活けた季節の花を置いたり、温度湿度計を設置して、居心地の良い空間作りに努めている。	清潔感があり、温度、湿度も管理されて快適に過ごせる空間となっています。利用者と職員と一緒に壁の飾り付けをして季節を楽しみ、調理の匂いや音で生活感のある居心地の良い空間づくりがされています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席は入居者様の相性に応じた席にしており、テーブル席に背を向けてソファを配置し目線を外す工夫をしている。 また、廊下の陽の当たる所に椅子を置き、外を眺めながら過ごせる環境を作っている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは自由にしており、テレビや椅子、タンスなど馴染みの物が持ち込まれている。 家族の写真や目覚まし時計、小物などご本人様の意向を確認しながら、居心地の良い空間を作っている。	馴染みのものを持ち込み、家族が装飾棚を用意したり、写真等が思い思いに飾られ、使い勝手よく過ごせる居住スペースがつくられています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ヒヤリハットや事故報告書を活用することで、日常生活上のリスクを減らし、ご自分の力で安全に生活できることに繋がっている。 居室やトイレの場所は目線に合わせた目印をつけ、分かりやすいようにしている。		